

## 訪問看護事業に関するアンケート結果と分析

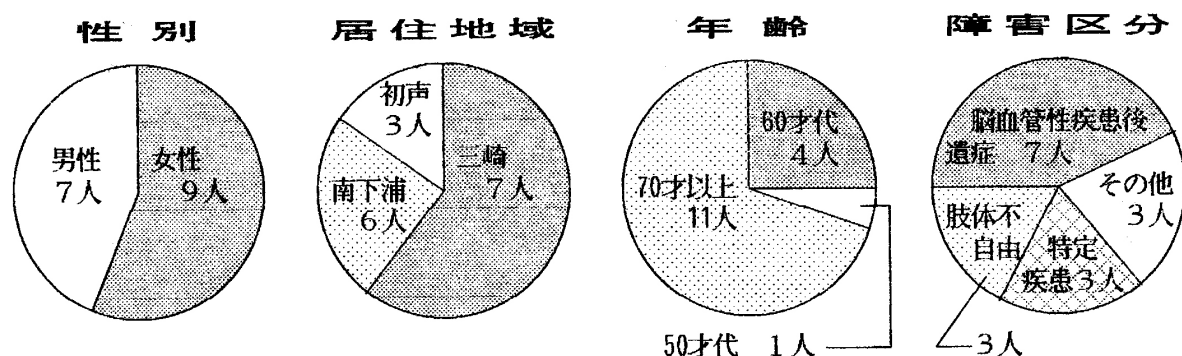
回答率は94.12%でした。(利用者17人中16人が回答)

◎このアンケートにお答えくださるのはどなたですか？

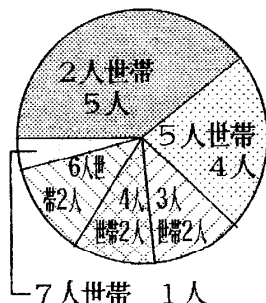
本人	3人	18.75%
介護者	13人	81.25%
その他	0人	—

対象者本人の回答率は18.25%。本事業利用者の身体状況が重度化していることを示している。

◎本人(対象者)のについてお聞かせください。



### 世帯構成人員



特徴的なところから。年齢では70才以上と回答された方が11人。全体の68.75%を占めた。

また、障害区分では脳血管性疾患後遺症の方が、43.75%と高い数字を残している。予防の重要性を痛切に感じる。「寝たきり」をつくらないための啓発(教育)活動の強化を求めたい。

世帯構成人員では、2人世帯と回答された方が目を引く。また、具体的な世帯構成者について記述式の回答を求めたところ、いわゆる高齢者夫婦世帯であることがわかった。

◎訪問看護事業のことをどこで知りましたか？

社協みうら	1人	6.25%
三浦市民	3人	18.75%
知人	4人	25%
福祉事務所	1人	6.25%
民生委員	2人	12.5%

保健所	1人	6.25%
その他	4人	25%

本事業の周知において、媒体となる機関・手段が実に多様化していることがわかる。中でも目を引くのは、「知人」からという回答。口コミは強い。

「その他」の内訳は、市立病院2人、三浦診療所1人、保健婦1人であった。

◎訪問看護事業があることを知って、すぐに利用しようと思いましたが？

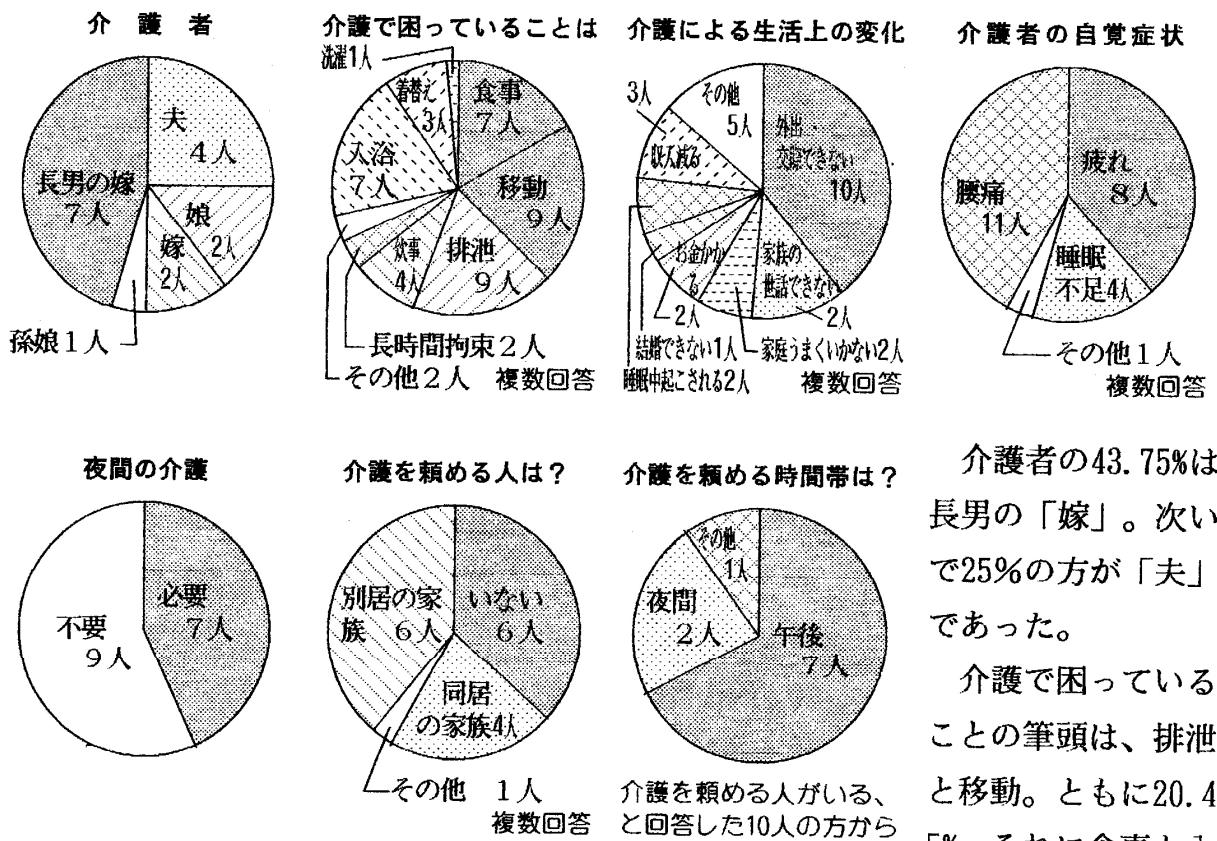
すぐ利用しようと思った	12人	75%
迷った	4人	25%

この設問に対して75%の方が「すぐに利用しようと思った」と回答。「迷った」と

回答された方は25%であった。その理由として3人の方が「家族で何とかできると思ったから」、そして、1人の方から「家の中を他人に見られたくない」という回答をいただく。

協会及び福祉事務所の各担当係は、今後とも市民が利用しやすい相談窓口を目指し、また、本事業が守秘義務のもとに実施されていることを周知していく必要がある。

◎介護者の方に伺います。



介護者の43.75%は長男の「嫁」。次いで25%の方が「夫」であった。

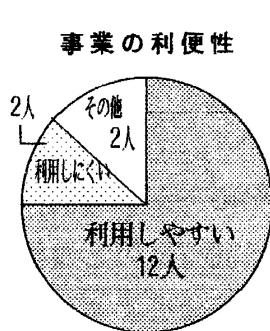
介護で困っていることの筆頭は、排泄と移動。ともに20.45%。それに食事と入浴が15.91%で続く。

介護による生活上の変化では、35.71%の方が「外出・交際ができない」と訴え、「介護者にとっての辛い、苦しいことを一時的に中断させる“息抜き”のための援助、レスパイト・ケア(Respite Care)」の構築に一石を投じる格好となった。介護者の方16人中15人、93.75%の方に腰痛や疲れなどの自覚症状があることを考えれば、その重要性に重みがあります。

また、「介護の交替を頼める人がいますか？」という問いに対しては、35.29%の方が「いない」と回答。同じく35.29%の方が「別居の家族」と回答している。介護を頼

める人がいると回答した方に、「それが可能な時間帯は？」という設問を用意したところ、「午後」と回答した方が70%で圧倒的多数を占めた。逆に「夜間」という回答は10人中2人、20%でしかなかった。こうした介護をめぐる環境とは裏腹に、43.75%の方が「夜間」の介護を必要としていることがわかった。

◎訪問看護事業についてどう思われますか？



利用者の75%が「利用しやすい」と回答。「手続きが面倒」という理由で「利用しにくい」と回答した方が2人、12.5%であった。

利用手続きのあり方については、例えばチケット制の導入など、利用者に立脚したサービス供給システムの確立が急がれる。「老人保健福祉計画」の動向を見守りたい。

◎看護婦の訪問で良かったこと

本人にとって

- 精神的な支えとなっている ○楽しい ○助かります ○世話になれる
- 本人にとりましては申すに及ばず立派な看護をしてくださいます、本人も口がきけない故に看護婦さんの有り難さを顔に表しています
- 看護婦さんの訪問で本人も心丈夫のようです ○話し相手になってくれる
- 喜び、楽しみに待っている ○風呂に入れる回数が多くなった
- 口はきけないが喜んでいる。風呂に入れてもらうと笑顔になる
- 手当てができたから良かった
- 朝から待っています。木曜日は決して忘れません。曜日の感覚を取り戻した

※16人中12人が回答。原文のまま記載。

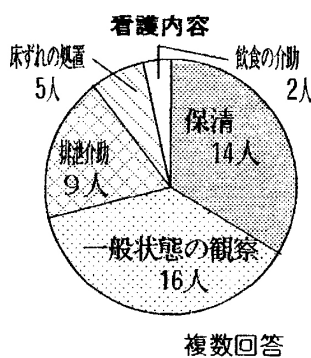
介護者にとって

- 助かっている 2人 ○私にできない事をしてくださる ○ありがたい
  - 介護者、家族、親戚一同、本人に代わりまして心より御禮申し上げます
  - 親切、丁寧に看てもらえるので、有り難く思っている
  - 介護の指導をしていただけ、助かっています
- 次ページへ

- 本人が明るくなった  本当に良かったと思います  うれしい
- 看護婦さんには、いつも励まされています。自分の心が明るくなるように思います
- 自分がお風呂に入れる回数が減って楽になった
- 本人だけでなく、私の心も明るくなります。アドバイスも適切です
- 全部皆さんにやっていただいて、息抜きをしています。大変助かります

※16人中、14人が回答。原文のまま記載。

◎主な看護の内容は



看護内容で目立つのは保清。14人、87.5%の方が全身清拭、入浴、洗髪などのケアを受けている。また、56.25%の方が排泄の介助、具体的には排便や膀胱洗浄といった看護を必要としている。褥創の処置は5人、31.25%であった。

さらに、看護婦が訪問しない日は、どのような看護をしていますか？という記述式の設問を介護者に用意したところ、16人中10人の方からご回答いただく。吸引機によって燕下障害者のタンをとっているという介護者もいれば、何もやっていないという介護者まで十人十色。その内訳は以下のとおり。

- 何もできない  介助員の世話になっている  何もやっていない
- 適当にやっています  膀胱洗浄、マッサージ、床ずれの処置をしている
- 部分的な清拭  飲食の介助、床ずれ・体温のチェック
- 地域福祉センターへ行っている
- 毎日くすりを塗ったり、体をあっちこちにむけています

※16人中9人が回答。原文のまま記載。

◎看護婦の仕事ぶり、態度、言葉づかいについてお聞かせください

- 良い7人  皆さん温かく、てきぱきとしていらっしゃる  とても優しいです
- 家に来てくださる方はとても良い方です。介護する私にとっても励みになりますし、いろいろ教えていただいています 2人
- 親切で丁寧

※16人中12人が回答。原文のまま記載。

記載者の全てが、好意的な意見を寄せている。

◎訪問看護事業についてご意見・ご要望をお聞かせください

- 回数と本人の希望をある程度聞いていただきたい ○別にありません 3人
- 特に家に来られる看護婦は、一般の看護婦さんと違い立派な教養と技能を身につけていられ申し分ない。病人に対しては温和で、口のきけない病人にも優しい接し方で一言一言問いかけてくださる。まさに賞賛に値します
- 退院するにあたり、自宅療養に不安感を抱いておりましたが、訪問看護などの地域福祉の援助をいただき、3ヶ月余りが過ぎました。今では、その不安感も薄れ、日々暮らすことができ、感謝で一杯です
- 全部良い ○わからない ○続けていただきたい ○回数を増やしてほしい
- この看護のおかげで、主人が長生きできるのではないかと思います

※16人中9人が回答。原文のまま記載。